

◆本堂のご案内

経王寺には何カ所もお堂があります。

その中で根幹となる場所が「本堂」です。

毎朝のお勤めに始まり、経王寺の大切な行事は全てこの本堂で営まれます。文字通り「要」となるお堂です。

机がたくさん並んでいる中央の部分を「内陣」（ないじん）といい、お上人さんがお経を上げる場所です。対して、皆さまが普段お参りする場所を「外陣」（げじん）といいます。特別な許可がない限り、内陣に立ち入ることは許されません。いわば「聖域」です。内陣の中でも正面の最上段を「宮殿」（くうでん）といい、ご本尊である「一塔両尊四師像」（いっとうりょうそんししぞう）が奉安されております。



中央にお題目（だいもく）の宝塔（ほうとう）、左に釈迦牟尼仏（しゃかむにぶつ）（＝お釈迦さま）、右に多宝如来（たほうによらい）が座して、法華経を説かれた場面の様相です。

そして、その御前には、宗祖であられる日蓮大聖人が座します。

現在の本堂は、第十二世住職松井義宣上人が「安心してお参りのできる明るい本堂」を目標に大改修を行い、ご本尊をはじめ、種々の荘厳具も修復しました。平成二十九年（2017年）に完成し、落成法要を営みました。修復されたご本尊や荘厳具などは、今も眩い光を放って、お参りに見えられた皆さまを優しくお迎えくださいます。



《歴史的な背景》

明治八年（1875年）、豊平の地で布教を始めた松井寛義上人が、小さなお堂を建てました。現在の本堂の十分の一ほどの祠（ほこら※1）でした。

明治十九年（1886年）ころには、豊平周辺も徐々に人口が増加し、それにもなってお檀家さんの数も増えて「本格的にお堂を建てよう」という機運が高まりました。そして、現在の本堂の基礎となるお堂ができあがります。開山上人御遷化（亡くなられて）の四年後の明治二十九年（1896年）九月、全ての寄進を整理して作成された「寄進一覧額」が第三納骨堂廊下に掲げてあります。

※1 祠（ほこら）とは神を祀る小規模な殿舎。